榊原の2ゴールで快勝！！

駒澤大学 3 ― 1 流通経済大学

KOMAZAWA UNIV. ― RYUTSUKEIZAI

勝ち越しゴールを決めた榊原
（撮影・中野成博）

［右］はそのゴールをアシストした塚本
（撮影・塩田英美）

終わることない戦い

後期ラストゲーム。長いリーグ戦の最後の相手は前期、1-5と大敗を喫している流通経大。前日に明大が東学大に引き分けた結果、明大の43年ぶりの優勝が決まっていた中でのゲームだった。しかし、会場には3000人を超える観衆が訪れ、両チームの勇士を見守った。ゲームは序盤から動く。2分、相手DFのハンドから得たPKを八角が決め先制。しかし、前々節、前節と毎回先制はするも、DF陣が粘りきれず失点を許す悪い癖をここでも露呈する。20分、ミスから生まれたルーズボールをあっさり蹴り込まれ同点とされる。その後も、流通経大のパスワークに振り回され、苦しい展開が続き前半を終える。誰もが、いつ逆転されてもおかしくないと思っていたことだろう。ただ、今日の駒大はどこか違った。後半に入ると、この日CBとして出場した塚本の「主にDF面で、前からのプレスとか、限定の仕方とかそういう所をやった」という試合後のこの言葉の意味が表れてくる。ゲームそのものは流通経大が支配するものの、結局最後までゴールを許すことなく、さらに榊原の2ゴールを加え、後期最終戦を3-1で終えてみせた。

試合後、秋田監督は勝因について「粘りじゃないですか。粘っこく粘っこくやれたんで良かったと思う」と評価した。選手自信も「インカレに向けて頑張ろう」（東平）、「インカレに繋げられるような試合をしよう」（小林）、次なる目標に向け、駒大サッカーをさらにもう一段階レベルを上げるために戦い、一歩でも前進した。総合順位では4位という結果に終わったが、「足りないところがあったのだと思う」と榊原、「全力でやってきた結果」と後期すべての出場した中山は語った。

もちろん「優勝」という2文字に届かなかったことは、選手である以上悔やまれることだ。掴みかけて逃した時ほど、人の脳裏にはその気持ちは焼きつくもの。4年生にとって駒大でのプレーは次のインカレだ最後となる。煮え切らないまま終われるわけがない。「もう一度見直して駒澤のサッカーをやって勝たないと面白くない」と主将の八角。今リーグ戦でアシスト王に輝いた塚本からは「インカレ4連覇を目指す」という言葉。一年の集大成でもあり、4年生にとっては駒大サッカー部人生のフィナーレ。どこで花散るも自由だが、ぜひとも聖地国立で美しく咲き誇る駒大サッカー部を見てみたいものだ。

（大畑　淳一）